

会津のイヌワシと共生し施工したトンネル建設工事



国道121号 湯野上3号トンネル工事

国道121号湯野上バイパスは、地域高規格道路『会津縦貫南道路』の一部を構成し、山形～福島～栃木間の広域連携の強化や、並行する国道121号の通行規制区間の解消等を目的とした自動車専用道路である。延長約8.3kmとなる本バイパスの整備により、「観光期の混雑を緩和し周遊観光を促進」「円滑で信頼性の高い走行環境の確保」「第三次医療施設へのアクセス性が向上」といった効果が期待されている。

本工事では同バイパスのうち、湯野上3号トンネル【L=1,580m】を築造した。



雪国の中でも、『特別豪雪地帯指定』を受けている地域『イヌワシ』が生息



狭いトンネル内での大型重機作業



掘りやすい程度の硬さの反面、水に弱い地質

工事概要

工事名	国道121号 湯野上3号トンネル工事
工事場所	福島県南会津郡下郷町白岩地内
工期	平成31年3月14日～令和4年3月16日
発注者	国土交通省 東北地方整備局
施工者	熊谷・大本・株木特定建設工事共同企業体
工事内容	トンネル延長・1,580m 坑門工・2基 非常駐車帯・2組 道路土工・1式

担当者の声

本工事は、土木工事のテーマでもある「自然との共生」の大切さを強く実感するものでした。

現場一帯は『特別豪雪地帯』であり、冬季には2m近い大雪が降り、物珍しさから休日にはスキー、スノーボードを楽しみましたが、最初の1ヶ月で飽きてしまい、それよりも生活するための雪かきに苦労し、雪国の過酷さを知りました。

現場周辺には国の天然記念物に指定されている『イヌワシ』が生息しているため、営業活動期間の3ヶ月は工事の中断をしたり、施工する際は「コンディショニング」(保全措置)を実施しました。コンディショニングとは、工事に対し『イヌワシ』を徐々に馴れさせることを目的として、影響をモニタリングしながら、段階的に工事を本格化していくものです。竣工までしっかりとモニタリングが継続され、自然の営みを間近で感じることができる大変貴重な経験でした。

また、同地域が水に影響を受けやすい山地であったため、破砕帯での地山挙動に補助工法で対処するなどの苦労はありましたが、日々、温泉、山菜、キノコ等の『自然の恵みに感謝』しながら施工期間を過ごすことができ、体も心も、リフレッシュできました。



東京本店 土木部

住吉克己

木村竜也

熊谷那睦